

ポーラ文化研究所 50 周年企画「よそおう わたし」

前期：2006.4/10_{Fri}→9/25_{Fri} **鏡を見つめて**

ポーラ文化研究所 50 周年企画「よそおう わたし」では、前期と後期に分けて「鏡」と「香り」にフォーカスします。前期「鏡を見つめて」では、古今東西の鏡を通して、自分らしい姿やよそおいを思い描いてきた歴史をひもときます。

身支度や化粧をする時に欠かすことができない道具「鏡」。その歴史は、水面に自分の姿を映し見た水鏡に始まります。古代の鏡としては黒曜石や金、銀、銅などを研磨したものが知られ、エジプトやギリシアでは精緻な装飾を施した青銅製の柄鏡も使われていました。ギリシアの流れを汲むエトルリアの鏡には、神話などのモチーフを流麗な線で描いた作例も見られます。

鏡の歴史の画期となったのは、ガラス鏡の登場です。16 世紀ヴェネチアで、ガラス板にアマルガム（錫と水銀の合金）の膜を形成する技法が開発されたことで、金属鏡より安定して鮮明な像を得られるガラス鏡がやがて主流となっていきました。現代においては、銀メッキを用いる製鏡法が一般的です。

身嗜みの道具として広く用いられてきた一方、鏡は霊的な力を宿すものとも考えられ、不可視の存在や内面、未来を映し出すと信じられることもありました。今の「わたし」をありのままに映し出す鏡。見つめた先には、自己認識や美意識を支えてきた歴史と、ありたい姿でいる未来が重なるようにも感じられます。

〈Books〉では、鏡との「対面」をキーワードに、6 つのテーマを設けました。

自分、あなた、群衆、リアルで、バーチャルで。さまざまな対面で、あなたはあなたとして、どうありたいですか。

Art 展示資料リスト

資料名	時代	製作者、メーカー、産地
青銅製手鏡（青銅製柄鏡）	紀元前 4 世紀頃	エトルリア
銀製手鏡	1900 年頃	ゴーラム／アメリカ
女神図銀製手鏡	1920 年か 1927 年	リチャード・コミンズ／イギリス
エナメル装飾手鏡	1925～1930 年頃	フランス
花かご文様ダブルコンパクト	1920～1930 年代	ウビガン／フランス
房付き幾何学文様トリプルコンパクト	1920～1930 年代頃	フランス
文字入りパウダーコンパクト「Au Revoir」	1930 年代頃	アトキンソン／イギリス
鏡付きリップスティック	1930～1940 年代頃	ミルリップ／イギリス
女性像立鏡	1900 年頃	W.M.F
人魚図手鏡「NAÏADE」	1930 年	ルネ・ラリック／フランス
山羊ぶどう図手鏡	20 世紀	ルネ・ラリック／フランス
菊花向い鶴円鏡	室町時代	
蓬萊柄鏡	室町時代	
南天猿柄鏡	江戸時代後期	
竹雀模様懐紙入れ	江戸時代末期	
牡丹模様懐紙入れ	江戸時代末期	
美人図ガラス製手鏡	明治時代	
桔梗紋ガラス製合せ鏡	大正～昭和時代	
梨地蒔絵鏡掛・鏡箱（大小）	江戸時代後期	
南天柄鏡	江戸時代後期	

ひとり

無人島にあなたは一人。

誰の目も気にすることなく、自然体のままであなたらしくいられるはず。
その時、あなたはどのような「よそおい」で過ごしますか？

『ドレス・コード? : 着る人たちのゲーム』牧口千夏[ほか]編. 京都服飾文化研究財団, 2019 [383.1]
化粧と同様に「着ること」も日常的な行為です。時代、地域、社会によってさまざまなルールや規範、ドレス・コードが存在します。冒頭あいさつ文で「ドレス・コード」を自己と他者との間の駆け引きあるいはゲームのようなコミュニケーションと表現します。本書は服装のコードをめぐって 11 の問いかけで構成された展覧会のカタログとして発行されました。従来の価値観 が大きく揺らぐ今、改めて手に取りたい書籍です。

- 『客観性の落とし穴 (ちくまプリマー新書 ; 427)』村上靖彦著. 筑摩書房, 2023 [116.7]
『エリクソンは語る : アイデンティティの心理学』R.I.エヴァンズ著/岡堂哲雄, 中園正身訳. 新曜社, 1981 [140.1]
『まなざしの心理学 : 視線と人間関係』福井康之著. 創元社, 1984 [140.4]
『ままならぬ顔・もどかしい身体 : 痛みと向き合う 13 話』山口真美著. 東京大学出版会, 2025 [141.2]
『特集 日記がひらく歴史のトピラ : DIARY 2021 (REKIHAKU ; 3)』国立歴史民俗博物館, 2021 [205]
『人のかたちの埴輪はなぜ創られたのか : 平成 27 年度秋季特別展』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館, 2015 [210.32]
『下剋上の文化』横井清著. 東京大学出版会, 1980 [210.4]
『江戸わかもの考 (歴史のなかの若者たち ; 3)』野口武彦著. 三省堂, 1986 [210.5]
『戦争中の暮しの記録』暮しの手帖社, 1972 [217.5]
『ルネサンスの女王エリザベス : 肖像画と権力』石井美樹子著. 朝日新聞社, 2001 [233.051]
『ルールはそもそもなんのためにあるのか (ちくまプリマー新書 ; 440)』住吉雅美著. 筑摩書房, 2023 [321.1]
『美人好きは罪悪か? (ちくま新書 ; 788)』小谷野敦著. 筑摩書房, 2009 [367.1]
『武家の女性 (岩波文庫 ; 33(青)-162-1)』山川菊栄著. 岩波書店, 1983 [367.21]
『女性たちの平成不況 : デフレで働き方・暮らしはどう変わったか』樋口英雄, 太田清, 家計経済研究所編. 日本経済新聞社, 2004 [367.21]
『女装する女 (新潮新書 ; 291)』湯山玲子著. 新潮社, 2008 [367.21]
『〈主婦〉の誕生 : 婦人雑誌と女性たちの近代』木村涼子著. 吉川弘文館, 2010 [367.3]
『指輪の文化史』浜本隆志著. 白水社, 1999 [383.3]
『化粧にみる日本文化 : だれのためによそおうのか?』平松隆円著. 水曜社, 2009 [383.5]
『ヘレナとエリザベス : 世界の女性史を塗り替えた、二人の天才企業家の生涯』L.ウッドヘッド著/桃井緑美子訳. アーティストハウス, 2004 [576.7]
『ゼロからの奇跡 : 50 歳、独学。不屈の化粧品開発』木下麻純著. 幻冬舎メディアコンサルティング, 幻冬舎 (発売), 2017 [576.7]
『シャネルの生涯とその時代 : 普及版』エドモンド・シャルル・ルー著/秦早穂子訳. 鎌倉書房, 1990 [589.2]
『シュウ ウェムラ』及川廣信著. 七月堂, 2013 [595]
『平成ニューファミリー消費論 : いまどき家族のおしゃれトレンドを探る』伊藤忠ファッションシステム著. ダイヤモンド社, 1998 [675]
『指輪 : 愛の扉をひらく』岩田正崔監修. 箱根ガラスの森美術館, 2008 [755.3]
『近代読者の成立 (岩波現代文庫 ; 文芸 32)』前田愛著. 岩波書店, 2001 [910.8]
『死化粧 : 最期の看取り』小林光恵著. 宝島社, 2005 [913.6]

反動

見たくないものを見ないために、
「遮断」する勇気や判断力もときには必要です。
モノゴトの情報があふれる現代、
束縛から解き放たれる決断を下すのもあなた自身です。

『校則本：やな教師、くだらないきまりをやっつけるのに少しは役に立つ本』学校解放新聞編 労働教育センター, 1985 [377.4]
児童・生徒の生活指針となる学習上・生活上心得をまとめた校則。学校設置のために制定が義務付けられている学則とは違い、内容や運営は各学校に任されています。1970年代以降、校内暴力など生徒の問題行動を鎮静化するために、校則は強化される傾向にありました。本書は管理教育が厳しかった1980年代半ばに、社会問題として話題にのぼる服装や髪型をはじめ、当時の現役高校生の声を集めて編集されています。

- 『それでも僕たちは「濃厚接触」を続ける!: 世界の感触を取り戻すために』広瀬浩二郎著, 小き子社, 2020 [069.5]
『特集 ポジティブ心理学の展開 (現代のエスプリ ; 第 512 号)』ぎょうせい, 2010-3 [140]
『味わいの現象学：知覚経験のマルチモダリティ』村田純一著. ぶねうま舎, 2019 [141.27]
『自己肯定感は高くないとダメなのか (ちくまプリマー新書 ; 486)』榎本博明著. 筑摩書房, 2025 [146.82]
『鹿鳴館：擬西洋化の世界』富田仁著. 白水社, 1984 [210.6]
『「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス (光文社新書 ; 243)』好井裕明著. 光文社, 2006 [361.9]
『炎上 CM でよみとくジェンダー論 (光文社新書 ; 1068)』瀬地山角著. 光文社, 2020 [367.2]
『男のイメージ：男性性の創造と近代社会』ジョージ・L・モッセ著/細谷実[ほか]訳. 作品社, 2005 [367.5]
『女子力男子：女子力を身につけた男子が新しい市場を創り出す』原田曜平著. 宝島社, 2014 [367.5]
『リクルートスーツの社会史』田中里尚著. 青土社, 2019 [377.95]
『日本人の生活文化事典』南博, 社会心理研究所編. 勁草書房, 1983 [382.1]
『美貌の文化史：神と偶像 (中公文庫 ; や 52-2)』矢田部英正著. 中央公論新社, 2013 [382.1]
『日本人の洋服観の変遷』家永三郎著. ドメス出版, 1976 [383.1]
『羞恥心の文化史：腰布からビキニまで』ヘルマン・シュライバー著/関楠生訳. 河出書房新社, 1984 [383.1]
『スポーツウェアの革命：もうひとつの20世紀ファッション』南目美輝構成・編集. 島根県立石見美術館, 2006 [383.1]
『装いの力：異性装の日本史』渋谷区立松濤美術館, 2022 [383.1]
『学校制服の文化史：日本近代における女子生徒服装の変遷』難波知子著. 創元社, 2012 [383.15]
『鏡の歴史』マーク・ペンダーグラスト著/樋口幸子訳. 河出書房新社, 2007 [383.9]
『異文化へのまなざし：大英博物館と国立民族学博物館のコレクションから』吉田憲司, ジョン・マック編. NHK サービスセンター, 1997 [389]
『ロボットの文化誌：機械をめぐる想像力 (叢書・<知>の森 ; 4)』馬場伸彦著. 森話社, 2004 [548.3]
『美を演じる経営：ポーラ=驚異の販売戦略』清水喬著. PHP 研究所, 1978 [576.5]
Worth : inventer la haute couture. Paris-Musées, 2025 [589.2]
『靴からタキシードまで「紳士」と呼ばせる服装術 (Shotor library)』落合正勝著. 小学館, 2003 [589.214]
『女性画家列伝 (岩波新書 ; 黄-318)』若桑みどり著. 岩波書店, 1985 [720.28]

情報源

天気やスケジュールを確認し、バーチャル試着でコーディネートを決定。
現代の魔法の鏡は、自分では気づかないような体調不良さえ
指摘してくれる。コントロールを完全に委ねる未来はすぐそこに？

『ヴァーチャル日本語役割語の謎（岩波現代文庫；学術 466）』金水敏著. 岩波書店, 2023 [814.9]

言語学者の著者は、特定のキャラクターと結びついた、特徴ある言葉づかいを「役割語」と名付けます。現実の日本語とは別に存在する「役割語＝ヴァーチャル日本語」を取り上げながら、言語にとっての現実に迫ろうとする 1 冊です。言葉づかいで「～らしい」人物像を表現する役割語を、古典文学から現代のマンガや映画の字幕まで幅広い用例を取り上げながらステレオタイプと標準語というキーワードで読者を役割語研究の地平へと誘います。

『LIFE SHIFT：100 年時代の人生戦略』リンダ・グラットン,アンドリュー・スコット[著]/池村千秋訳. 東洋経済新報社, 2016 [159]

『〈インターネット〉の次に来るもの：未来を決める 12 の法則』ケヴィン・ケリー著/服部桂訳. NHK 出版, 2016 [007]

『化政文化の研究：京都大学人文科学研究所報告』林屋辰三郎編. 岩波書店, 1976 [210.57]

『老いの歴史：古代からルネサンスまで』ジョルジュ・ミノワ著/大野朗子,菅原恵美子訳. 筑摩書房, 1996 [230.04]

『コンヴァージェンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』H.ジェンキンス著/渡部宏樹 [ほか]訳. 晶文社, 2021 [361.453]

『婦人雑誌からみた一九三〇年代』私たちの歴史を綴る会編著. 同時代社, 1987 [367.21]

『@cosme クチコミランキング』アスキー・コミュニケーションズ,アスコム,講談社, 2003-2019 [595]

『明治・大正の広告メディア：〈正月用引札〉が語るもの』熊倉一紗著. 吉川弘文館, 2015 [674.7]

『文明開化の写真師：片岡如松物語』小平豊著. 随想舎, 2005 [740.21]

『Femme beauty：ファム・ビューティー』edited by Banana Boat Crew. 二見書房, 2007 [778.28]

『句読点、記号・符号活用辞典。』小学館辞典編集部編. 小学館, 2007 [801.9]

Face

手触り、感情、態度、表層の下に隠された内面まで。

「かお」は実にさまざまな情報を発しています。

ただ、それはありのままではなく、ときには演技のように、
つくられたものであるかもしれません。

『界面活性剤の話（科学のとびら；28）』北原文雄著. 東京化学同人, 1997 [576.5]
身近な家庭生活から、大規模な産業分野にまで欠くことできない界面活性の技術について、わかりやすく解説しています。
イラストや化学式などを交えた解説は、用途、種類、性質から当時問題視されていた環境とのかかわり、安全性と界面活性剤の全般にわたります。さらに知りたい人のためには、巻末の「第2章で取り上げた化学式」や参考文献リストが深い探索の助けになるでしょう。

- 『現代幸福論（東京大学公開講座；65）』吉川弘之[ほか]著. 東京大学出版会, 1997 [041]
『色彩の哲学（双書現代の哲学）』村田純一著. 岩波書店, 2002 [116.7]
『顔を読む：顔学への招待』レズリー・A・ゼプロウィッツ著/羽田節子, 中尾ゆかり訳. 大修館書店, 1999 [141.67]
『特集 顔・身体をもつ道具たち（REKIHAKU；11）』国立歴史民俗博物館, 2024年 [205]
『見せる自分/見せない自分：自己呈示の社会心理学（セクション社会心理学；1）』安藤清志著. サイエンス社, 1994 [361.4]
『ルッキズムってなんだろう？：みんなで考える外見のこと（中学生の質問箱）』西倉実季著. 平凡社, 2025 [361.4]
『鏡と仮面：アイデンティティの社会心理学（SEKAISHISO SEMINAR）』A.L.ストラウス[著]/片桐雅隆監訳. 世界思想社, 2001 [361.48]
『OLの創造：意味世界としてのジェンダー（A-BOOKS）』金野美奈子著. 勁草書房, 2000 [366.38]
『男性性を可視化する：〈男らしさ〉の表象分析』熊谷謙介編著. 青弓社, 2020 [367.5]
『世界の仮面文化事典』吉田憲司編者代表. 丸善出版, 2022 [386.8]
『きれいはいまもゆれている：外見・身体・アイデンティティの交差点』谷本奈穂, 飯塚理恵編著. 晃洋書房, 2025 [595]
『大江戸商い白書：数量分析が解き明かす商人の真実（講談社選書メチエ；602）』山室恭子著. 講談社, 2015 [672.1]
『大阪の引札・絵びら：江戸・明治のチラシ広告：南木コレクション』大阪引札研究会編. 東方出版, 1992 [674]
『商家と看板：第九回特別展』厚木市郷土資料館編. 厚木市教育委員会, 2007 [674.8]
『「美しい顔」とはどんな顔か：自然物から人工物まで、美しい形を科学する（DOJIN SENSHO）』牟田淳著. 化学同人, 2013 [701]
『フェイス・ヴァリュー：美の政治学』ロビン・T・ラコフ, ラケル・L・シェール著/南博訳. ポーラ文化研究所, 1988 [704]
『鏡前美人：もっと、美しく』平木浮世絵財団企画・編集, 佐藤光信監修. 平木浮世絵美術館, 2025 [721.8]
『かお』ノーマン・メッセンジャー作. フレーベル館, 1995 [726.6]
『日本人ノ顔：大阪 3-1』荒木経惟写真；荒木経惟「日本人ノ顔」プロジェクト編. 紀伊國屋書店, 2002 [748]
『写真のなかの「わたし」：ポートレイトの歴史を読む（ちくまプリマー新書；251）』鳥原学著. 筑摩書房, 2016 [740.2]
『やきもの文様事典（陶工房 Books）』陶工房編集部編. 誠文堂新光社, 2021 [751.1]
『近世漆器の産業技術と構造』北野信彦著. 雄山閣, 2005 [752.2]
『テレビドラマ史：人と映像』佐怒賀三夫著. 日本放送出版協会, 1978 [775.9]
『顔は変わる。すぐできる、マイナス10歳のアンチエイジング。（ターザン；902）』マガジンハウス, 2025-5-22 [780]
『式亭三馬：江戸の戯作者（新装版）』棚橋正博著. ベリかん社, 2007 [913.55]

加工

ヒトが他の動物と決別し、ヒトとして生きていくために手に入れた技術。
それはやがて文明を作り、国を生み、産業となっていきました。
今後、持続可能であるかどうかのカギにもなっています。

『18世紀のヘアスタイリング：貴婦人の髪型から帽子、メイクまで忠実に再現』

ローレンス・ストーウェル,アビー・コックス著. ホビージャパン, 2023 [383.5]

18世紀後半、英国ジョージ王朝時代のヘアスタイルを、当時の方法で再現することを目的としたハウツー本です。手順を示す写真を多く掲載し、髪や整髪料の扱いのほか、化粧品、髪飾り、髪を高く盛り上げるためのクッションの作り方なども、型紙つきで紹介しています。再現にあたってモデルとした絵画や参考文献のリストを巻末に付し、同時代のヘアスタイル研究にも有用な資料集となっています。

『産業革命（世界史リブレット；116）』長谷川貴彦著. 山川出版社, 2012 [209]

『ローズ・ベルタン：マリー＝アントワネットのモード大臣』ミシェル・サボリ著/北浦春香訳. 白水社 2012 [289.3]

『くよそおい』の心理学：サバイブ技法としての身体装飾』荒川歩[ほか]編著. 北大路書房, 2023 [361.4]

『かわいい症候群』増淵宗一著. 日本放送出版協会, 1994 [361.5]

『盛りの誕生：女の子とテクノロジーが生んだ日本の美意識』久保友香著. 太田出版, 2019 [361.5]

『下着の誕生：ヴィクトリア朝の社会史（講談社選書メチエ；189）』戸矢理衣奈著. 講談社, 2000 [383.15]

『頭部・首・肩・ウエスト（アクセサリーの歴史事典；上）』K.M.レスター,B.V.オーク著/古賀敬子訳. 八坂書房, 2019 [383.3]

『脚部・腕と手・携帯品（アクセサリーの歴史事典；下）』K.M.レスター,B.V.オーク著/古賀敬子訳. 八坂書房, 2020 [383.3]

『お化粧しないは不良のはじまり』山本桂子著. 講談社, 2006 [383.5]

Gabriela Hernandez. *Classic beauty: the history of makeup*. Schiffer Publishing, [2017] [383.56]

『岩石と宝石の大図鑑：岩石・鉱物・宝石・化石の決定版ガイドブック』R.L.ボネウィッツ著/青木正博訳. 誠文堂新光社, 2007 [459]

『大量生産の社会史』オットー・マイヤー,ロバート・C.ポスト編/小林達也訳. 東洋経済新報社, 1984 [509.253]

『日本ガラス鏡工業百年史』先田与助著. 日本ガラス鏡工業百年史編纂会, 1971 [573.57]

『ビューティ・ジャンキー：美と若さを求めて暴走する整形中毒者たち』A.クチンスキー著/草鹿佐恵子訳. バジリコ, 2008 [595]

『Beauty legends' stories：近代美容を彩った先人たち』並木孝信著. 女性モード社, 2015 [595.4]

『現代絵画の社会学と美学：時代の画像』アーノルト・ゲーレン著/池井望訳. 世界思想社, 2004 [723.08]

『近代大阪職人図鑑：ものづくりのものがたり』大阪歴史博物館編著. 青幻舎, 2016 [750]

『金銀細工師の生活』塚原美村著. 雄山閣, 1973 [756.3]

『腕一本』加藤加奈子著. [加藤加奈子], 2025 [756.3]

『和鏡：文様に見る花鳥風月：池谷コレクション：特別展』町田市立博物館, 1986 [756.5]

『2.5次元学入門』須川亜紀子編. 青土社, 2024 [772.1]

『女形のすべて』戸板康二著. 駸々堂出版, 1990 [774.38]

『歌舞伎のかつら』松田青風著. 演劇出版社, 1959 [774.68]

コンサート開幕直前の静寂を破るオーボエの音色。
それに和して次々と楽器の音が重なり合います。
人と人との交流も音楽のようなもの。
お互いに調律をしながら広がっていきます。

チューニング

『デザインの旅：化粧品/商品デザイン 50 年「開発物語」』遠藤紀雄著. [H&F], 2017 [576.7]

内容を保護するという基本的な役割に加え、視覚的要素や機能性の追求、ブランドの概念や価値の表現、生産 輸送コストへの配慮、さらには環境対応まで一商品パッケージには実に多様な要素が求められます。本書は、ポーラでインハウスデザイナーとして、長年パッケージデザインに携わった後に独立した著者が、自身のパッケージデザイン歴 50 年の節目に刊行した一冊です。後半には「技術編」として、化粧品容器の製作工程や構造の図解が収録されています。

『現実を解きほぐすための哲学』小手川正二郎著. トランスビュー, 2020 [104]

『古代日本の生命倫理と疾病観』大星光史著. 思文閣出版, 2005 [121.3]

『もうひとつの声で：心理学の理論とケアの倫理』キャロル・ギリガン著/川本隆史[ほか]訳. 風行社, 2022 [143.5]

『鏡の古墳時代（歴史文化ライブラリー；547）』下垣仁志著. 吉川弘文館, 2022 [210.32]

『響きあうところ：ポーラの仕事とともに私は』柿沼孝枝著. ポーラ化粧品本舗, ポーラ文化研究所（発売）, 1999 [289.1]

『ステレオタイプの科学：「社会の刷り込み」は成果にどう影響し、わたしたちは何ができるのか』C.スティール著/藤原朝子訳. 英治出版, 2020 [361.4]

『日常からの文化社会学：私らしさの神話』河原和枝著. 世界思想社, 2005 [361.5]

『西洋のレッスン、日本の手習い：言語化しにくい身体感覚をめぐる比較文化論』樋口桂子[著]. 青土社, 2025 [361.5]

『女子のたしなみ：変わりゆく意識とくらし：特別展』安城市歴史博物館編集. 安祥文化のさと地域運営共同体, 2022 [367.21]

『良妻賢母という規範（新装改訂版）』小山静子著. 勁草書房, 2022. [367.21]

『鏡の心理学：自己像の発達』ルネ・ザン著/加藤義信訳. ミネルヴァ書房, 1999 [376.11]

『儀礼としての愛と結婚：中世から現代まで』マルチヌ・セガレーヌ著/片岡幸彦, 片岡陽子訳. 新評論, 1985 [385.4]

『婚礼：ニッポンブライダル考』福島県立博物館, 2005 [385.4]

『特集 五感と身体のウェルビーイング（科学；第 95 巻第 6 号）』岩波書店, 2025-6 [400]

『医療と健康のための心理学』青木智子編著. 北樹出版, 2018 [490.14]

『黄帝内経運氣：古代中国の気象医学とバイオリズム』李建章編訳/身心の古典翻訳同人訳. ベースボール・マガジン社, 1997 [490.9]

『漢方の歴史：中国・日本の伝統医学（新版）（あじあブックス；076）』小曾戸洋著. 大修館書店, 2014 [490.9]

『人体観の歴史』坂井建雄著. 岩波書店, 2008 [491]

『香水』フランソワーズ・サガン, ギョーム・アノトー共著/鷺見洋一訳. 新潮社, 1984 [576.72]

『パヒュームレジェンド：世界名香物語』マイケル・エドワーズ著/中島基貴訳. フレグランスジャーナル社, 2005 [576.72]

『香水の歴史：フォトグラフィー』ロジャ・ダブ著, 新聞美也監修/富岡由美, 沢田博訳協力. 原書房, 2010 [576.72]

『だから私はメイクする：悪友たちの美意識調査』劇団雌猫編著. 柏書房, 2018 [595]

『デザイン科学事典』日本デザイン学会編. 丸善出版, 2019 [757.5]

ポーラ
文化50
研究所